平成23年6月23日(木)

第416回　史跡めぐり

新緑の歴史の里・美しき自然大平山、小江戸栃木蔵の街散策

大平山神社

塚田歴史伝説館と巴波川

NPO法人越谷市郷土研究会

第416回　史跡めぐり

栃木の自然と歴史と小江戸栃木蔵の街散策

実施日　平成23年6月23日(木)

集　合　東武線越谷駅西口　　午前7時20分

参加費　6000円(バス代、入館料、昼食代、資料、保険料)

コース

東武線越谷駅西口 ⟶ 浦和IC ⟶ 佐野・藤岡IC

◎　大平町　おおひら歴史民俗資料館(重文見学)　トイレ有
　　おおひら郷土資料館(白石家戸長屋敷見学)　AM10：00
◎　大平山　あじさい坂登り口，六角堂
　　謙信平(陸の松島)、山本有三文学碑
　　大平山神社、見晴台、随神門(重文見学)トイレ有　AM11:30

☆　栃木市巴波川のほとり「魚宇」で美味しい昼食 AM12:00～12:50

◎　横山郷土館(外館見学) → 県庁堀 → 栃木病院(外館見学)
◎　岡田記念館・翁島別荘見学　PM2:00
◎　例幣使街道 → 塚田歴史伝説館(外館見学)
◎　郷土参考館見学
◎　とちぎ山車会館見学　PM4:00
◎　自由見学、お買物時間　PM4:30

帰路

栃木市 → 佐野・藤岡IC → 浦和IC → 越谷駅西口 PM6:00

案内者　　常任理事　渡辺　和照

　　理事　　田端　功政

栃 木 市

☆　面積 252 平方 km(越谷市 60.3 平方 km)

☆　人口 13.9 万人(越谷市 32.7 万人)　　栃木県人口第 4 位

平成 22 年　栃木市、大平町、藤岡町、都賀町が合併新栃木市誕生

江戸時代には市内を流れる巴波(うずま)川を利用した江戸との舟運、朝廷から日光東照宮へと派遣された使者(例幣使)が通行した例幣使街道の宿場町として盛えた商都で「小江戸」の別名を持つ、戦災を免れた為、歴史的な寺院のほか、市街地には江戸時代から明治時代にかけての蔵や商家などが多く残っており、「美しいまちなみ大賞」を受賞している。

江戸後期，釜喜４代の醤油業善野喜平衛が、喜多川歌麿を招いて「雪、月、花」の大作を描いて頂いたという。

栃木市大平町

おおひら歴史民俗資料館

栃木市大平町の縄文時代から現代までの考古・歴史・民俗資料を展示しています。

特に、昭和４４年に発掘された国指定重要文化財「舟形木棺」(古墳時代６世紀)が公開されています。

「舟形木棺」は
全長 5.5m で国内最大、直径 1.2m のヒノキを半分に割り作られた。

(舟形木棺)

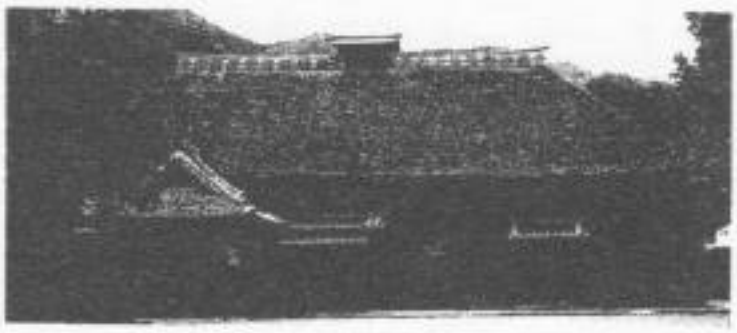
他に「やじり」、「木装太刀」、「ほこ」、「板状土偶」等が展示されています。

2階は企画展示
全国のいろいろな玩具とか珍しい昔の人形が数多く展示されています。

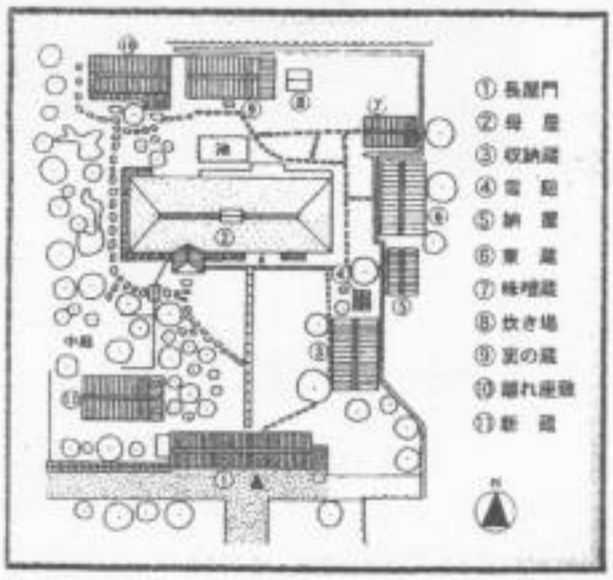
おおひら郷土資料館---旧戸家、戸長屋敷

江戸時代後期の文政年間(1818～1829)の母屋・蔵で大庄屋の趣を残す建物です。

長屋門、大玄関(代官や村役人などの専用の玄関)、及び大正７(1918)年秩父宮殿下がこの地で行われた陸



軍特別大演習の折に泊まられた「離れ座敷」が現存しています。



太平山とその周辺案内略図

あじさい坂

六角堂前から随神門に至る大平山神社参道、約１０００段の石段両側に西洋あじさいをはじめ、額あじさい、山あじさいなど約２．５００株が咲き競う。
このあじさいは、昭和４９年にライオンズクラブが植樹した。

見頃は６月下旬から７月上旬である。石段はこの山で産出する石を使った「のづら積み」で、信徒の労力と寄進によるものである。雨の日は黒く光り格別美しい。のんびり眺めながら歩いて３０分かかります。

六　角　堂　（大平山連祥院般若寺）

天長２年(８２５)、比叡山延暦寺の天台座主滋覚大師の開創でもとは大平山の別當寺、現在の大平山神社境内にあった。御本尊は、滋覚大師作と伝えられる県内で一番古い木造彫刻の虚空蔵菩薩で、平成２年県指定有形文化財(彫刻)なる。この堂は、明治３５年(1902)京都頂法寺の六角堂を模し堂宇を建立した。平成６年県指定有形文化財(建造物)なる。

謙　信　平

山頂近くの謙信平からの眺めを「陸の松島」と、明治・大正の国学者岡吉胤が讃えたほどの素晴らしさです。晴れた天気の日に恵まれて眺められることを期待します。
富士山も見られるかもしれません。

山　本　有　三　文学碑

「路傍の石」の一節が刻まれている。

「たった一人しかない自分を、
**　たった一度しかない一生を、**
ほんとうに生かさなかったら、
人間生まれてきたかいがないじゃないか」

今も感銘を与えている。

山　本　有　三

栃木市の呉服商の子としとて明治 20 年生まれました。　高等小学校卒業後、父親の命で一旦東京浅草の呉服商に奉公に出されるが逃げ帰り、母親の説得で東京に戻る。正則英語学校、東京中学に通い 1908(明治４１年)東京府立一中を卒業、1909(明治 42 年)9 月一高に入学、東京帝大独文科に入る、菊池寛・芥川龍之介等と文芸協会を結成する。

作品としては「路傍の石」、「波」、「真実一路」、「米百俵」などがある。
戦後参議院員をつとめ、政治家として重きをなす一方で積極的な創作活動を行った。1965 年文化勲章を受賞しました。

大平山神社

主祭神　　瓊々命(ににぎのみこと)
祭　神　　天照大神、豊受大神
例　祭　４月１９日　１１月１９日

天長４年(８２７)、慈覚大師円仁により創建された。明治維新までは、三光神社太平山大権現と称した。

祭神は、月、日、星の三光天子である。大平山神社は、徳川将軍家の崇敬極めて厚く朱印地５０石を寄進された。

神社拝殿の傍に、境内社の一つ、星宮神社があるが建物の造りは仏堂である。この神社は、神仏混淆の名残りで、神仏分離令以前は虚空蔵菩薩を祀っていた。

明治始め、拝殿、本殿が造営され明治２９年(1896)に県社となった。

見晴台

ここから眺めると栃木市内が一望できます。案内図に従って栃木市の歴史ある古い建造物を探して見て下さい。

この大平神社を中心にして数軒の茶店があり、「だんご」、「やきとり」、「たまごやき」が名物になっています。

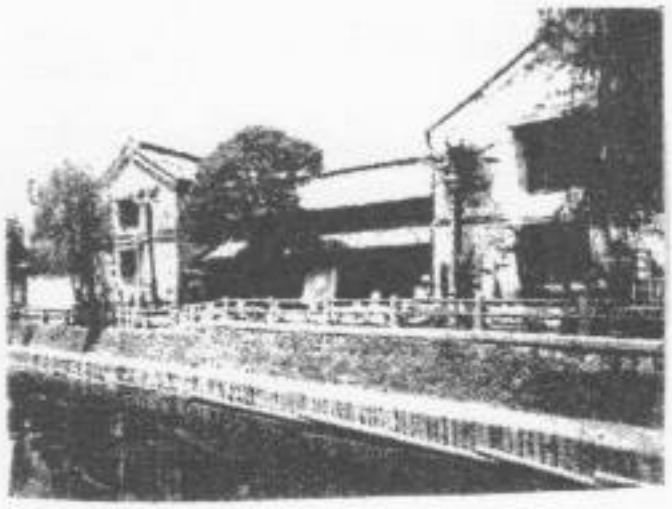
随神門（国の重要文化財指定）

もとは連祥院の仁王門で、江戸時代中期に建立された。

現在は、前に左大臣、右大臣の像が安置され、後には仁王像が配されているが、これは神仏分離令の施行により、仁王門を随神門としたときに入れ替えたもので、太平山が寺院として栄えた頃の名残りである。天井に龍の絵は、江戸時代後期に大平町富田生まれの「等隋」が描いた。龍の絵は市指定有形文化財である。

栃木市蔵の街とその周辺案内略図

横山郷土館（国の有形登録文化財）



明治時代の豪商横山家の店舗は、間口七間(12.6m)もある切妻造りの建物で、その店舗前には古いガス灯が立っています。この店舗の右半分が麻問屋、左半分が明治３３年(1900)創業の銀行を営んだところであり、それぞれ当時の帳場や店内の様子を偲ぶことができます。

店舗の左右相対し、右が麻蔵---鹿沼産の深岩石で造られ、左が文庫蔵—岩船石で造られている。

それぞれ、間口四間、奥行き五間もある石蔵です。

旧県庁跡地と県庁堀

明治４年(1871)の廃藩置県により、明治４年の１１月に下野国は栃木県と宇都宮県にわかれ、さらに、明治６年(1873)には栃木県に統一され、栃木町は、下野国を一つの県とする栃木県庁の所在地となった。

当時、その敷地の周囲に、約１Kmに及ぶ堀を県庁堀とよばれていた。

明治１６年(1883)第３代県令となった三島通庸(みちつね)はその翌年県庁を宇都宮に移転したため、わずか１３年で県都の幕をとじました。その移転の事情は、当時、栃木町が自由民権運動の拠点であったことも一因と言われている。

栃　木　病　院

北欧海岸の建築物をモデルに、大正２年(1913)に、木と木を巧に組み合わせた「ハーフティンバー」という洋式で建てられた。屋根は雪を考えて急勾配の造りで、土台は巴波川の水害を考慮して高くなっている。

当時は、栗田口病院といい、看護婦や助産婦の養成学校として造られた。

今は栃木病院と名を改め、多くの人たちに利用されている。
平成１０年国の有形登録文化財となりました。

岡田記念館

岡田家は550年以上の歴史をもつ旧家で、江戸時代に未開地を開墾して村民の基礎作りを指導し安定した部落づくりに貢献したという。以来、当氏の名を取り、この地を嘉右衛門新田(現嘉右衛門町)と称した。

同家は例幣使街道沿いの現在地に居宅を構え嘉右衛門を襲名している。高家畠山氏の領地時代、元禄元年(1688)から、この地に陣屋が設けられた。

館内の蔵に、韓信堪忍図—栃木県文化財，陶器—板屋波山作、など岡田家の宝物が展示されている。

栃木一古いといわれる「酒屋」、「床屋」が残されている。

翁　島

岡田記念館より少し離れた所に、翁島という岡田家の別邸がある。

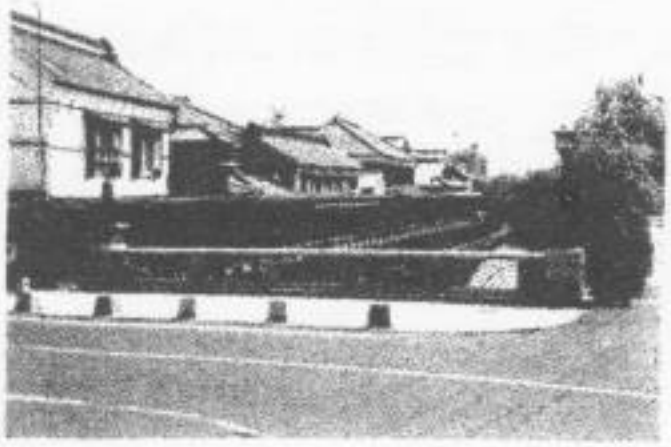
自家の荷揚場のあとに建設したもので用材を吟味し錬達の工匠により、大正13年(1924)竣工した。特に廊下の長さ六間半(11.8m)、幅三尺(0.9m)、厚さ一寸(3cm)の欅の一枚板は素晴らしい。１０年の歳月を費やして完成された別荘です。

例　幣　使　街　道

元和３年(1617)、徳川家康の霊柩が日光山に改葬されたが、その後、正保３年(1646)からは、毎年京都の朝廷から日光東照宮へ幣帛(へいはく)を奉納する勅使(例幣使という)がつかわされた。その勅使が通る道を例幣使街道と呼んだ。例幣使は京都から中山道を下り、高崎、太田、佐野、栃木、日光に至る

東照宮に参拝する西國大名も通り、にぎわいをみせた。

塚田歴史伝説



塚田家は、江戸時代後期の弘化年間(1844～1848)から木材回漕問屋を営んできた豪商で、木材を筏に組み、巴波川から利根川を経て江戸深川の木場まで、約４３里(１７０Km)を三日三晩で運んでいたという。

巴波川沿いに１２０ｍに及ぶ黒塀を巡らし、1300坪の敷地には８つの白壁土蔵が立ち並び、その偉容を巴波川の川面に映す姿は、栃木蔵の街の代表的な風景のひとつとなっている。

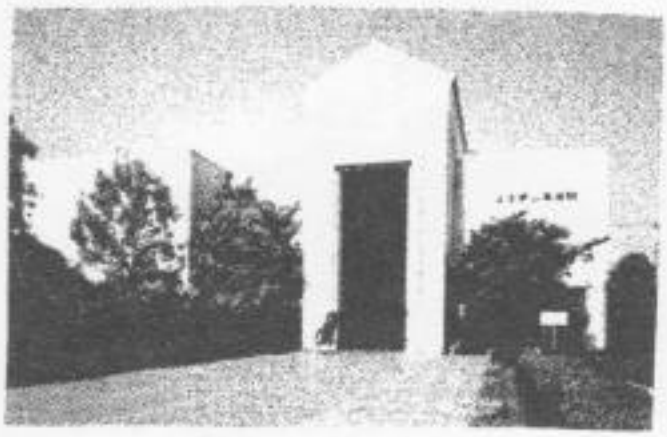
館内には、歴代が蒐集してきた家宝を展示している。
ハイテクによる人体型ロボットが演ずる伝承民話を上演(１５分)している。　幸来橋かどの眺めがテレビなどでもよく放映されている。

栃木市郷土参考館

質屋を営んでいた板倉の母屋と土蔵からなり、約200年前の江戸期の建物である。母屋は格子のくぐり戸で出来た入口、幅５寸、高さ１尺３寸の鍵の手にまわる框、土蔵に続く珍しい造りの座敷、千本格子の取り外し自由な障子などの特徴がみられ、貴重な造りが当時のままで現存している。

建物の中には、歴史資料や栃木市ゆかりの芸術家の作品などが展示されている。

とちぎ山車会館



栃木の山車は、江戸末期から明治時代にかけて作られた江戸型人形山車で、見事な彫刻と刺繍がほどこしてあり、職人たちの優れた技の結晶を見ることができる。

平成７年(1995)２月に会館した。このとちぎ山車会館は県指定有形民俗文化財の保存を兼ねて祭りのの興奮

をいつでも楽しめるようにと３台の山車を常時展示し、定期的に他の３台と入れ替えをしながら、ハイテクを駆使して秋祭りを再現して見せている。二階は、山車の資料に関する展示になっている。非常に興味深い展示品が多い。

万町（よろずちょう）一丁目の山車

明治２６年(1893)　法橋原舟月(東京日本橋)の作綾羅(ちょうら)錦繡をまとった天照大神、屋台の一重は錦襴幕、二重は金糸の刺繍、緞帳も金糸銀糸の刺繍という豪華なものです。「とちぎ秋まつり」は明治７年(1874)にはじまり。現在、県指定有形民俗文化財の山車６台と他に２台の山車、獅子頭を合わせ９台一度に練り歩く。

あだち好古館

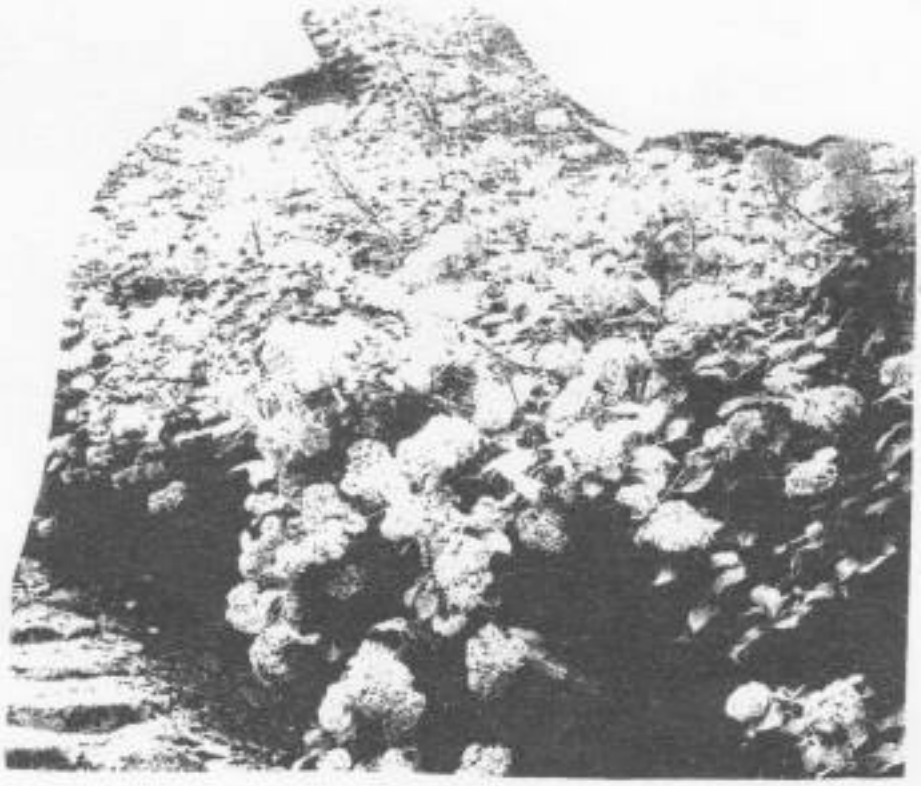
江戸時代末期の文久３年(1963)から明治中期(1900)に建てられた呉服商の蔵で１号室から７号室まで「蔵の美術館」として開館されている。
各室には浮世絵、錦絵、甲冑など展示されており、貴重なものは、喜多川歌麿肉筆の「山姥と金太郎」、安藤広重の「東海道五十三次」や勝海舟、大久保利通の書が展示されている。

山本有三ふるさと記念館

この建物は江戸期に建てられた見世蔵を「山本有三記念会」が改修整備し、平成９年１１月に開館したものである。
館内には、これまで記念会が収集した有三愛用の机や回転書架、帽子などの遺品、自筆の原稿などを展示し、一般に公開している。

メモ

大平山のアジサイ



<次の資料から引用しました>

1　とちぎ　鯉のいる街・蔵の街　栃木市観光協会

2　栃木県の歴史散歩　　山川出版社

3　大平町の文化財　　大平町教育委員会

4　栃木市観光協会のパンフレット

5　栃木県の歴史　　山川出版社

6　おおひら歴史民俗博物館資料

7　目で見る栃木市史　栃木市